

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の推進
------	-------------------------

研究テーマ	ヨーロッパと日本の国際推進事業のプログラム化の開発：連携から協働				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史

講演題目	ヨーロッパと日本の国際推進事業のプログラム化の開発：連携から協働
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本取り組みのキーワードは「連携」から「協働」である。これまで数多くの研究期間と連携（MoU）を結んできたものの、両大学間での具体的な教育プログラムの成立（COILなどの他大学が主導のもののはのぞく）はなかった。本研究の目的は、ヨーロッパの諸大学との国際交流を加速させるために、新規協定校の開拓と平行して協働プログラム開発を行うことである。</p> <p>今年度は実際の交流を深める機会となった。そのいくつかをあげる。2023年10月16日、スペイン国立バリアドリード大学社会科学法学コミュニケーション学部（セゴビア・キャンパス）のマルタ・ラグナ学部長とクリスティナ・ベラ副学部長（国際交流担当）が本学を訪問し、特別講義を実施した。経営学専門のマルタ先生が、スペイン語を受講する1年生を対象に、「スペインの観光産業の潜在能力 - 複数の観光地を抱える国」と題して、観光大国であるスペインの魅力と観光戦略について特別講義を行い、言語学専門のクリスティナ先生は、3年生向けに、「スペイン語のユーモアを理解する」をテーマにセミナーを開催した。両先生は、瓦を使ったユニークな商品を開発している長澤瓦商店株式会社を訪問し、地域企業の知見も深めた。</p> <p>2023年12月6日、トヨタ自動車の元副社長である石坂芳男氏が、同社の高級車ブランドであるレクサスの誕生にまつわる講演を、ブレーメン州立経済工科大学の「Doing Business in Japan」講義の一環として行い、ドイツの学生との交流を深めた。講義終了後、ブレーメン州立経済工科大学の学生からは、アメリカ・トヨタ自動車の社長としての心構えに関する質問が寄せられ、石坂氏は、トップとして従業員の話や市場の声を聴くことの重要性を再強調しました。この講演は、日本とドイツの製造業における共通点を探る貴重な機会となった。これに加えてパルマ大学とは、学生の交流を2023年10月にパルマで、11月に静岡で、それぞれ行い、学生間の交流を深めた。この交流では、パルマと静岡のそれぞれで地域フィールドワークを行うものであり、その成果に基づいて学生同士で協議して実際の成果物を出した（今回は静岡市街のイタリア人向け観光マップの作成を行った）。こうした成果に基づき、本学教員の上野がパルマ大学を訪問し、今後の教育プログラムの開発を行い、ガストロミーをテーマとして進めていくこと、2025年9月からの学生交換についても暫定で合意した。</p> <p>今後の課題として、実際の教育プログラムを整備していくためにヨーロッパの大学とのすり合わせが必要になる。特に言語、時差、時期（ヨーロッパと日本では学期に半年間の違いがある）の違いをどのように対応するかについて引き続き検討していく。</p>